

Wall Street & Technology

INFORMATION TECHNOLOGY FOR THE SECURITIES & INVESTMENT MARKETS

capital
MARKETS

典型的な金融機関とは異なる特別のリスク管理ニーズと観点を持つマイクロソフト社は、同社の企業財務部門においてバーラ社の TotalRisk システムを導入しました。マイクロソフト社は同システムを昨年（1999 年）導入し、週次で信用リスク・市場リスク分析、さらに同社の資本市場グループの全体的なリスクエクスポージャーの分析及び管理のために役立てています。同グループは債券、外国為替、株式などを含む約 370 億ドル相当のポートフォリオを管理しています。TotalRisk システムは基本的なリスク分析機能に加え、同社内部のベンチマーク対比の分析やリスク調整済み資本収益率の算出などの応用機能を搭載することで、より正確でよりタイムリーな分析とレポートを提供します。

マイクロソフトの企業財務、外国為替部署のマネージャーである George Zinn によると、システム導入における容易さとマイクロソフト Windows NT 上に Dcom アーキテクチャーを用い構築されたシステムとしていち早くマーケットに登場した点を、バーラ社の TotalRisk システムを選んだ理由として述べています。「私たちはモンテカルロシミュレーションを夜間バッチ処理で行い翌朝には、同社のトレーダーと経営陣のために情報を用意することができます。また、古い情報や有効性のない情報を除くことでタイムリーかつ適切なレポートを提供します。」

「導入の際検討した他のシステムの名前は明かすことはできません。しかし、数多くのシステムを検討した結果、バーラ社のシステムは導入に要する時間とコストの点で、私たちの企業財務部としてのニーズによりよく応えるシステムであった。」と George Zinn は述べています。「マイクロソフトにとって重要な機能であるシナリオ分析と感応度分析に加え、使いやすさとシステムのカスタマイズ機能も同システムを選ぶ重要な理由となりました。同社のポートフォリオマネージャーは感応度分析を行い、Value-at-Risk 値を算出し、仮説検証を行います。それから、アセットクラス、投資プログラムなどにまたがったそれらの情報は統合され経営陣のもとへ提供されます。」

「マイクロソフトにおけるリスク管理の視点は独特なものです。同社において、ポートフォリオの組み替えについては日次のリスク水準で論じられるものではなく、より長い時間の尺度で論じられています。それゆえに、私たちはポートフォリオの償還された銘柄やその際の再投資について、長期間を念頭においたシミュレーションをかけています。また、スワップにおけるカウンターパーティーリスクや証券発行体のスペシフィックリスク分析にも多くの時間を割いています。TotalRisk はこれらのニーズに応えるだけでなく、他の同種のシステムと比べ低いコストと最小限のリソースによる稼働を実現しています。同システムはメンテナンスやサポートのために多数の専門スタッフを要する必要がありません。この点が、他の大きなシステムと対等の機能を持ちながら、その運用（TCO）に関しては、格段に低いコストを実現させている理由です。